

第4次野洲市子どもの読書活動推進計画 チェックシート

①実績

目標内容	所属	対象	R5		R6		R7		R8		R9		R10		R11		第4次計画目標 (R11)	
学校図書館における児童生徒1人あたり年間貸出冊数	学務課	小学校	8.8	冊/人	14.2	冊/人	21.2	冊/人		冊/人		冊/人		冊/人		冊/人	15	冊/人
		中学校	0.4	冊/人	0.4	冊/人	1.1	冊/人		冊/人		冊/人		冊/人		冊/人	2	冊/人
「子どもの読書活動に関する調査」において、1か月に1冊以上の本を読んだ児童生徒の割合	生涯学習課	小学校	95.1	%	98.4	%	93.1	%		%		%		%		%	98	%
		中学校	84.7	%	88.2	%	81.9	%		%		%		%		%	90	%
読書活動においてボランティア等と協力している園・学校の割合	学務課	幼稚園・認定こども園	7園 77.8%	83.3%	8園 88.9%	88.89%	8園 88.9%	94.44%	0園 0.0%	0%	0園 0.0%	0%	0園 0.0%	0%	0園 0.0%	0%	8園 100%	100%
		小学校	6校 100.0%		6校 100.0%		6校 100.0%		0校 0.0%		0校 0.0%		0校 0.0%		6校 100.0%			
		中学校	2校 66.7%		2校 66.7%		3校 100.0%		0校 0.0%		0校 0.0%		0校 0.0%		3校 100.0%			
公共図書館における児童書の貸出冊数	野洲図書館	公共図書館	153,254冊		154,983冊		160,196冊										153,500冊	

評価について
A: 目標以上
B: 目標通り

②実績を受けての各課分析

目標内容	所属	取組内容(分析)	評価	課題等
学校図書館における児童生徒1人あたり年間貸出冊数	学務課	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書配置前に学校図書館支援員が支援として取り組んできたことのノウハウを学校司書に伝達しながら、学校図書館運営を行うことができた 学校司書の配置、学校図書館支援員の支援により読書活動の推進に努めたことが大きな要因 配置校、学校図書館支援員の関わりが大きい学校の貸出し冊数が増加している 学校図書館内の整備だけでなく、校内の要所にブックトラック等で本を手にとることができる環境を整備 学校図書館利用のオリエンテーションを小学校で実施 図書を活用した授業の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小学校においては貸出冊数が目標値を超えているものの、中学校における貸出冊数は目標値を下回っている。 中学校においては、学校図書館を利用できる時間が限定的であり、生徒がいつでも気軽に行ける場所にはなっていない。学校図書館に行こうと思える環境づくりが必要(人的配置、蔵書数増加、イベントの企画等) 学校司書は現在2名で配置校としては市内9校のうち4校だけである。学校司書配置校の貸出冊数や授業での図書の活用実績を踏まえると、さらなる人員の充実が必要。
「子どもの読書活動に関する調査」において、1か月に1冊以上の本を読んだ児童生徒の割合	生涯学習課	各読書・学校図書館ボランティアの協力を得て、学校図書館の整理・運用することで子どもたちが読書をしやすい環境を整える必要がある。そのために読書ボランティア交流研修会を開催し、読書ボランティアの活動を広げるきっかけをつくる。	B	小学校、中学校共に学年が上がると1ヶ月に1冊読書をする生徒の割合が減りがちである。読書ボランティア交流研修会の参加者を増やすためにも、周知期間を確保し、より多くの参加者を募る。
読書活動においてボランティア等と協力している園・学校の割合	こども課	保護者サークルや地域ボランティアによる読み聞かせやお話を実施し、絵本や劇を通してお話しに親しむ機会をもつことができた。中学生と交流し、読み聞かせをもらった園や、地域ボランティアの方に絵本の修繕に協力いただいている園、子育て支援事業で未就園児に読み聞かせをしていただいている園もある。ボランティアの協力により、絵本やお話しに触れ、親しむ機会が増えている。	B	保護者サークルが在園の保護者で構成されており、メンバーの入れ替わりにより存続が難しいことがある。また、園によっては日程調整が難しく、回数を増やせないことが課題となっている。各園で継続できる内容や方法を工夫していく必要がある。引き続き、読み聞かせの重要性や園での様子を地域や保護者に発信し、絵本に親しむ機会を充実させていきたい。
	学務課	すべての小中学校でボランティア等と連携しながら、図書の受け入れ・整備、読み聞かせなどで協力いただくことができたことで、学校図書館の整備や読書活動の推進につなげることができた。ボランティアが各校において、学校図書館を活用したいというニーズに答えていただける活動をしていただけている。	B	学校図書館の運営は、学校が主体となる必要があるため、ボランティアと、より一層情報交換・共有を進めていくことが必要。
公共図書館における児童書の貸出冊数	野洲図書館	<ul style="list-style-type: none"> *図書館の蔵書の整備を図るとともに、子どもと本をつなぐ取組みを積極的に実施した。 *図書館内でのおはなし会を計77回実施したほか、子ども関連の事業として『「聴導犬ポッキー いつもいっしょ」講演会・原画展』、「一日図書館員」、「化石とあそぼう」、「図書館クイズにチャレンジ!」、「図書館で★謎解き〜館長さんの落とし物」、「としよかんで夜更かし」等を開催した。 *館外では地域の子育てサロンや養護学校またアル・プラザ野洲でも移動図書館とおはなし会を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書予算の減少と書籍価格の高騰のため、児童書受入冊数が年々減少しており、資料費の確保が大きな課題である。 一方で、普段は棚に埋もれている既存資料を効果的に展示するなど、利用者が本を手にとりたくなるような魅力のある書架づくりに努める必要がある。 集会事業をきっかけに来館した子どもが、その後も図書館を利用し続けられるような工夫が必要。 来館できない子どもへの支援の一環として、移動図書館事業の準備を進めていく。